



第3期 鹿児島市

# グリーン・ツーリズム 推進計画

稼ぐ体験型ツーリズムの推進による農村地域の活性化





## はじめに



近年、都市部住民を中心に、農村での生活や豊かな自然・食・文化、人々との交流を体験・体感できるグリーン・ツーリズムへの関心が高まっております。

本市におきましては、このようなニーズを踏まえ、農村地域での滞在や体験交流等を通じて、農村地域における交流人口の増加や消費需要の拡大、地域住民の生きがいづくりなど、農村地域の活性化を図るため、グリーン・ツーリズムの推進に計画的に取り組んでまいりました。

一方、新型コロナウイルス感染症の拡大が観光関連産業をはじめとした地域経済に深刻な影響を与え、観光を取り巻く環境は大きく変化してきております。

また、人口減少や少子高齢化の進行などによる農村地域の活力の低下が懸念される中、今後は、社会情勢の変化や観光客のニーズの多様化などを的確に捉えた取組が重要となります。

こうした状況を踏まえ、第六次鹿児島市総合計画の基本目標の一つに掲げる「魅力にあふれ人が集う 活力あるまち」を、グリーン・ツーリズムの観点から推進するため、「第3期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画」を策定しました。

この計画では、自然豊かな農村地域との関わりを求める都市部住民や観光客との交流拡大に引き続き取り組むとともに、農村地域の特徴・強みを生かした収益力の高い体験型観光を推進するため、「稼ぐ体験型ツーリズムの推進による農村地域の活性化」を基本目標に掲げております。

計画の推進にあたりましては、農村地域の皆様や各種団体、行政が緊密に連携し、取り組んでいくことが何より重要でありますので、皆様方の一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、本計画の策定にあたり、熱心に議論を重ねていただきました鹿児島市グリーン・ツーリズム推進協議会の委員の皆様をはじめ、貴重なご意見やご提案をいただきました市民や関係の皆様方に心より感謝申し上げます。

令和4年3月

鹿児島市長 下鶴 隆央



# 目次

## 第1章 計画策定にあたって 1

1 計画策定の趣旨	1
(1) 計画策定の目的	1
(2) 計画の位置づけ	2
(3) 計画期間	3
(4) SDGsとの関連	3
2 グリーン・ツーリズムの現状と課題	4
(1) 第2期計画の進捗状況	4
(2) 第2期計画の総括	4
(3) 社会環境の変化、動向	5
(4) グリーン・ツーリズムのさらなる推進に向けた課題	5

## 第2章 計画の全体像 8

1 基本目標及び基本方針	8
2 計画の体系	9
3 目標指標	10

## 第3章 基本方針の展開 11

基本方針1 稼ぐ「KAGOSHIMAグリーン・ツーリズム」の展開	11
基本施策	11
基本方針2 マイクログリーン・ツーリズムの推進	13
基本施策	13
基本方針3 多様な主体による持続可能な体制づくり	15
基本施策	15
横断的な取組 ICTの活用と戦略的な情報発信	16

## 第4章 地域別計画 17

---

1 谷山地域	17
2 伊敷地域	19
3 吉野地域	21
4 吉田地域	23
5 桜島地域	25
6 喜入地域	27
7 松元地域	29
8 郡山地域	31

## 第5章 グリーン・ツーリズムの推進に向けて 33

---

1 推進体制	33
2 計画の進行管理	33

## 参考資料 34

---

1 本市の農村地域	34
2 第3期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画 全体図	35
3 他都市におけるグリーン・ツーリズムの取組事例	37
4 用語解説 (50音順)	39

# 第1章

## 計画策定にあたって

### 1 計画策定の趣旨

#### (1) 計画策定の目的

本市では、自然豊かな農村地域との関わりを求める都市部住民や観光客のニーズに対応するとともに、農村地域の活性化を図るため、平成18年（2006年）に「鹿児島市みどり豊かな農山村ふれあい推進基本計画」を、平成24年（2012年）に「鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画」（以下「第1期計画」という。）を、さらに、平成29年（2017年）に「第2期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画」（以下「第2期計画」という。）を策定し、グリーン・ツーリズムの推進に取り組んできました。

このたび、第2期計画が令和3年度（2021年度）で終了することから、これまでの進捗状況や新型コロナウイルス感染症拡大などの社会情勢の変化、持続可能な都市と農村の交流のために不可欠なSDGsの視点などを踏まえ、上位計画である「第六次鹿児島市総合計画」における基本施策「地域特性を生かした観光・交流の推進」を図るため、「第3期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画」（以下「第3期計画」という。）を策定します。

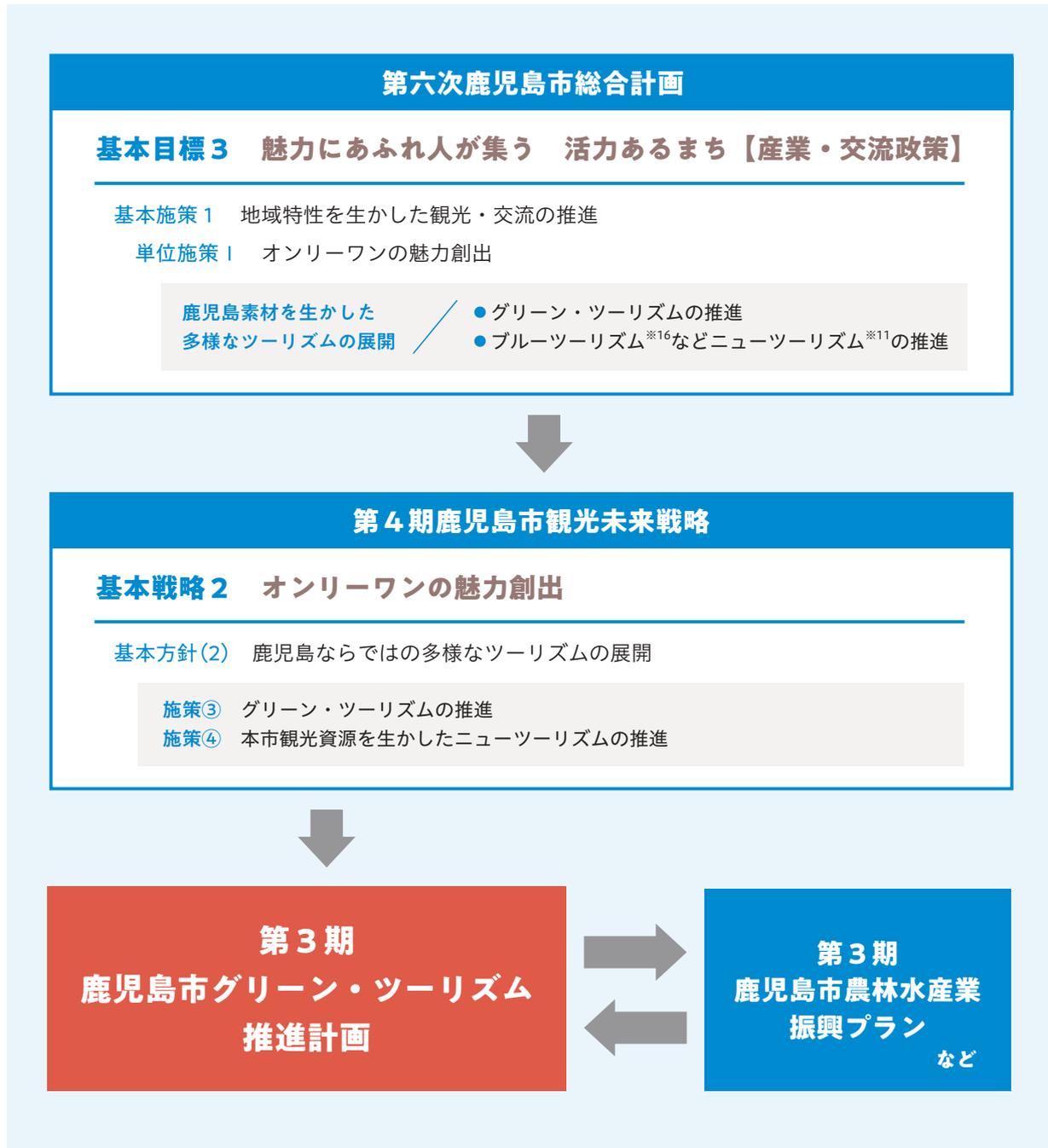
#### 本市のグリーン・ツーリズムの定義

- 本市におけるグリーン・ツーリズムは、「農村地域の自然、文化、人々との交流を楽しむ活動」とし、特に農村地域に息づく農林水産業を生かした都市農村交流を進めていきます。
- 本計画における農村地域とは、「農業振興地域の整備に関する法律」に基づく農業振興地域などとし、それらの周辺も含めることとします。<sup>(注)</sup>
- 利用者は主に都市部住民や観光客とし、農村地域で受け入れることとします。

(注)「農業振興地域の整備に関する法律」に基づく農業振興地域、「森林法」に基づく県が策定する地域森林計画で定める地域、「漁業法」に基づく漁業権区域及び「漁港漁場整備法」に基づく漁港区域とします。(P34で示す区域とします。)

## (2) 計画の位置づけ

本計画は、上位計画である「第六次鹿児島市総合計画」におけるグリーン・ツーリズム分野の個別計画とするとともに、「第4期鹿児島市観光未来戦略」、「第3期鹿児島市農林水産業振興プラン」など、本市関連計画との整合性を図ります。



### (3) 計画期間

本計画の計画期間は、第六次鹿児島市総合計画前期基本計画と合わせ、令和4年度から令和8年度までの5年間とします。



### (4) SDGs との関連

SDGs（持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals）とは、平成27年（2015年）9月の国連サミットにおいて採択された国際社会全体の共通目標です。

第3期計画においては、SDGsの目指す17の目標のうち下記の4つの目標が関連することから、本計画においても、SDGsの視点を取り入れた計画とします。

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



## 2 グリーン・ツーリズムの現状と課題

### (1) 第2期計画の進捗状況

第2期計画に基づく各種事業を着実に実施した結果、「農業体験などの延べ体験者数」が平成30年度に、「グリーン・ツーリズム登録団体等<sup>※7</sup>数」が令和2年度に、それぞれ目標を達成している一方、「グリーン・ツーリズム登録団体等における売上額」など3指標については、増加傾向にあるものの目標に達していない状況にあります 。

図1 目標指標の達成状況（第2期計画）

指標	目標策定時	実績値					目標値
	平成27年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度(A)	進捗(A/B)	令和3年度(B)
指標1 農業体験などの延べ体験者数(人/年)	約61,200	約66,000	約72,300	約71,500	約47,600	68%	70,000
指標2 グリーン・ツーリズム登録団体等数(団体)	42	42	44	46	49	102%	48
指標3 グリーン・ツーリズムホームページへのアクセス件数(件/年)	約166,200	約136,300	約165,000	約164,600	約170,900	90%	190,000
指標4 グリーン・ツーリズム登録団体における売上額(千円/年)	約480,000	約483,758	約485,437	約463,706	約360,298	66%	550,000
指標5 グリーンファームの利用者数(人/年)	約193,000	約182,100	約190,600	約192,500	約154,200	70%	220,000

### (2) 第2期計画の総括

第2期計画は、第1期計画の取組を踏まえ、「多彩な体験、あたたかい交流による心身のリフレッシュと農村地域の活性化」を基本目標として策定し、この基本目標の実現に向けた各種事業を展開し、グリーン・ツーリズムを推進してきました。

目標値に達していない指標がある一方で、令和2年(2020年)1月以降の新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、観光業に多大な影響が生じている状況下において、グリーンファームのキャンプ場利用者が増加傾向にあるなど、屋外での体験等のニーズが高まっていると考えられます。

今後は、新型コロナウイルス感染症による生活スタイルや価値観の変化等を考慮しながら、各種施策を展開する必要があります。

### (3) 社会環境の変化、動向

第2期計画策定以降、本市の入込観光客数は堅調に推移し、宿泊観光客数は平成30年（2018年）に410万人と過去最高を更新しました〔図2〕。一方、令和2年（2020年）の新型コロナウイルス感染症の拡大により、観光客の激減や都道府県を跨いだ移動の制限、外出自粛など、観光業は多大な影響を受けています。さらに、「新しい生活様式」に基づく三密回避の取組や、「テレワークの推進」、「オンラインショッピングの浸透」など、人々の生活スタイルや価値観は大きく変化しています。

また、感染防止・三密回避の観点から、少人数での旅行やキャンプなど屋外での自然を生かしたアクティビティ、県内・近隣地域内における「マイクロツーリズム<sup>※18</sup>」のニーズが高まっています。

### (4) グリーン・ツーリズムのさらなる推進に向けた課題

#### ① 人口の減少、少子高齢化、後継者不足

本市の人口減少、少子高齢化（〔図3〕～〔図5〕）に加え、グリーン・ツーリズム活動を担う人材の後継者が不足している状況下において、交流人口・関係人口の増加を図るため、その担い手となる人材の発掘、育成が重要となります。

#### ② 受入体制の弱さ

人口減少により国内市場が縮小する中で、滞在型観光の促進に向け、インバウンド<sup>※3</sup>を含めた観光客を受け入れるための農家民泊<sup>※12</sup>や農家民宿<sup>※13</sup>など、宿泊機能の強化が重要となります。

#### ③ 地域の収益力の低さ

グリーン・ツーリズム活動が継続して行われ、持続可能な都市と農村の交流を目指すうえで重要となる、収益力向上を図る取組が必要であります。

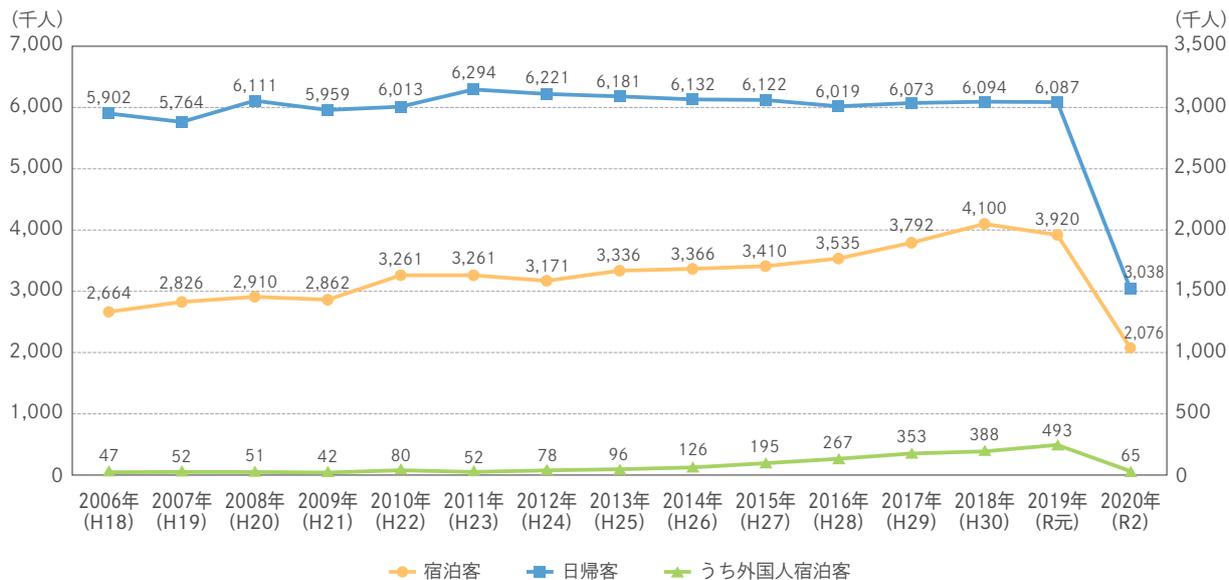
#### ④ 地域資源の活用不足

本市には、桜島や錦江湾をはじめ、農村地域の豊かな自然・景観など多くの地域資源に恵まれていますが、まだ十分に活用されていない資源を最大限に活用する取組が必要であります。

#### ⑤ 情報発信力の弱さ

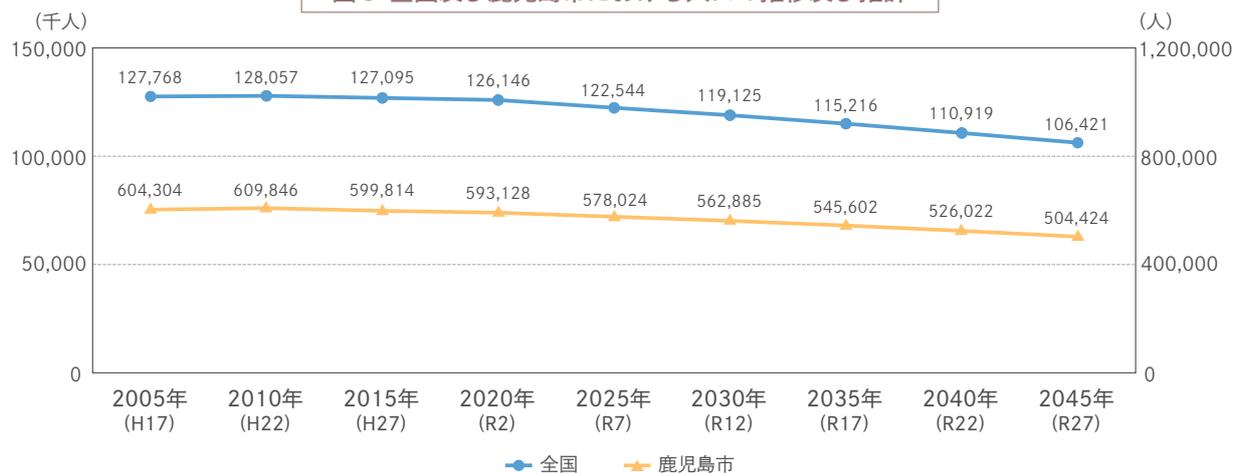
観光客等のニーズや動向を的確にとらえ、SNS<sup>※5</sup>などICT<sup>※1</sup>を活用した効果的な情報発信の強化が必要であります。

図2 鹿児島市における観光客数の推移



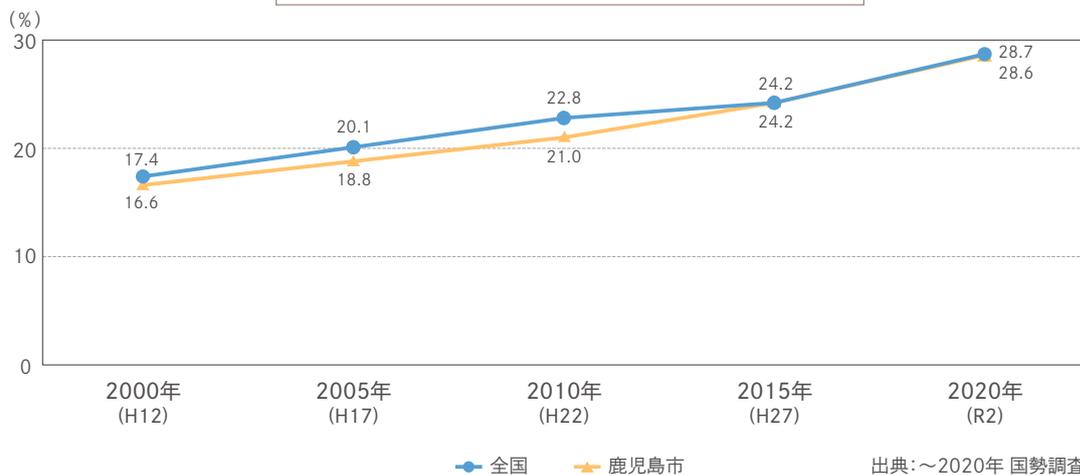
出典：令和2年 鹿児島市観光統計

図3 全国及び鹿児島市における人口の推移及び推計



出典：～2020年 国勢調査、2025年～ 社人研推計

図4 全国及び鹿児島市における高齢化率の推移



出典：～2020年 国勢調査

図5 各地域における人口及び高齢化率の推移



■ 人口    ● 高齢化率

出典：住民基本台帳(各年10月1日)  
(各支所管轄人口の合計)

## 第2章

# 計画の全体像

### 1 基本目標及び基本方針

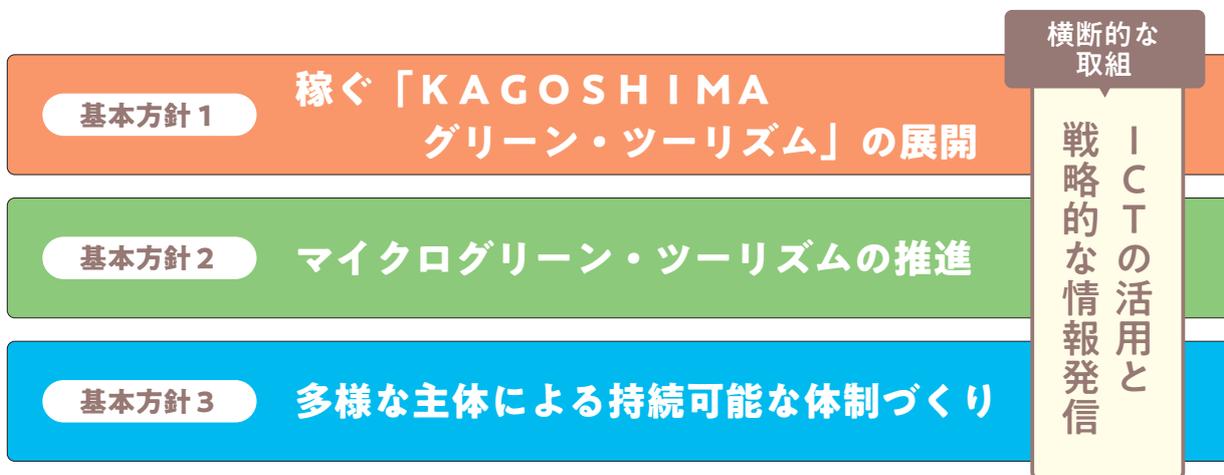
第3期計画については、これまでと同様に農村地域の多様な資源を活用した体験など、多彩なグリーン・ツーリズムの取組により、都市部住民や周辺自治体住民との交流拡大を図ります。さらに、農村地域の特徴・強みを生かした収益力の高いプレミアムな体験型観光の推進により、稼ぐ「KAGOSHIMAグリーン・ツーリズム」を創出するとともに、多様な主体による持続的な体制づくりを推進し、農村地域の活性化を図ります。

また、グリーン・ツーリズムの推進による体験・交流の拡大を図る中で、農村地域の住民の「生きがい」や、都市部住民等の「やすらぎ」、「いやし」の創出にもつなげていきます。

#### 基本目標

### 稼ぐ体験型ツーリズムの推進による農村地域の活性化

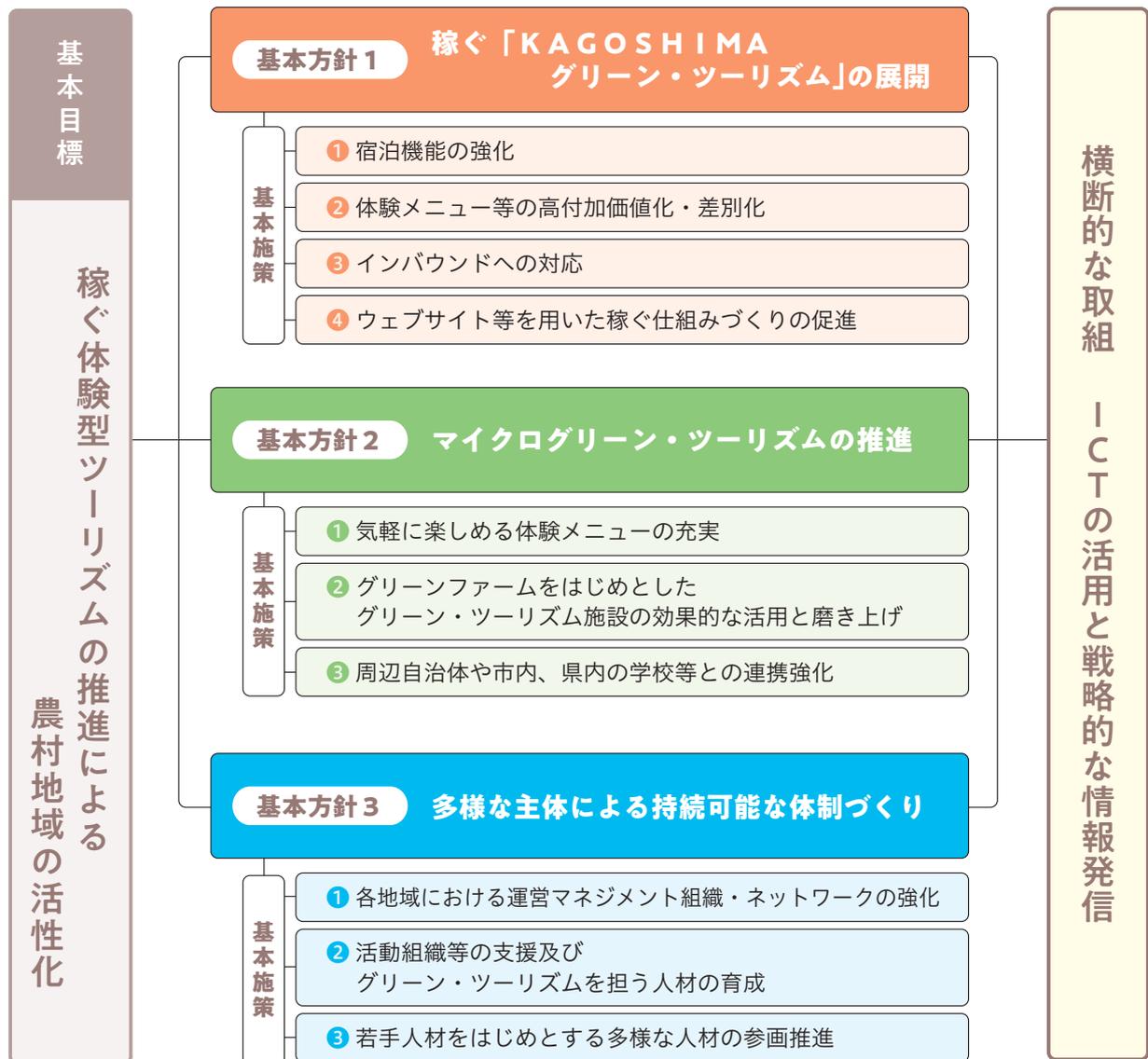
上記基本目標を実現するために、第2期計画の内容を踏襲しながら、新たな3つの基本方針を設定します。なお、いずれの基本方針についても、ICT<sup>\*1</sup>の活用や、周知等に向けた情報発信の強化が必要であり、横断的な取組としてICTの活用と戦略的な情報発信を設定します。



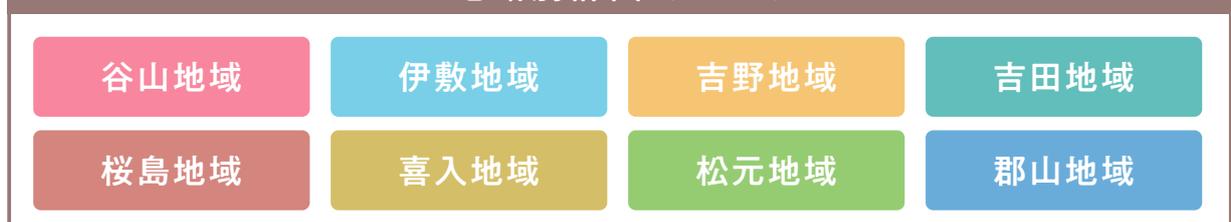
## 2 計画の体系

基本目標に基づき、3つの基本方針ごとに関連する基本施策を体系化し、取組を進めます。  
あわせて、中央地域を除いた谷山・伊敷・吉野・吉田・桜島・喜入・松元・郡山の8地域について、地域別計画を定め、地域の実情に応じた取組を進めます。

第3期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画の体系図



地域別計画（8地域）



### 3 目標指標

施策の取組の指標として、次の5つの目標指標を設定します。目標年度は計画の最終年度である令和8年度（2026年度）とします。

※新型コロナウイルス感染症拡大により、令和2年度の観光客数が激減したため、目標指標1、2、5においては「令和5年度（2023年度）に令和元年度（2019年度）の水準に回復する」という想定で数値を設定しています。

#### 目標指標

1

#### グリーン・ツーリズム登録団体等<sup>※7</sup>における売上額

令和元年度実績	令和2年度実績
約463,706千円	約360,298千円

#### 令和8年度目標

510,000千円

注) 対象は、グリーン・ツーリズム登録団体等のうち「農産物直売所（市施設のみ）」、「観光農園」、「農家民宿<sup>※13</sup>」、「農家レストラン」とする。

#### 目標指標

2

#### 活動組織等<sup>注1</sup>及び グリーンファームにおける農業体験等の延べ体験者数

令和元年度実績	令和2年度実績
約71,500人/年	約47,600人/年

#### 令和8年度目標

79,000人/年

注1) グリーン・ツーリズム登録団体等及び農家民泊<sup>※12</sup>の受入組織

#### 目標指標

3

#### 農家民泊、農家民宿の受入家庭数

	令和元年度実績	令和2年度実績
農家民泊	73軒	63軒
農家民宿	17軒	17軒

#### 令和8年度目標

73軒

22軒

#### 目標指標

4

#### SNS<sup>注2</sup>フォロワー数

令和元年度実績	令和3年度 <sup>(注3)</sup> 実績
—	約2,400人

#### 令和8年度目標

4,800人

注2) 対象は、鹿児島市世界遺産・ジオ・ツーリズム推進課公式 Facebook、Instagram 及びグリーンファーム公式 Facebook、Twitter、Instagram とする。

注3) 令和2年度は未集計のため令和3年9月末時点

#### 目標指標

5

#### グリーンファームの利用者数

令和元年度実績	令和2年度実績
約192,500人/年	約154,200人/年

#### 令和8年度目標

210,000人/年

# 第3章

## 基本方針の展開

### 基本方針1

#### 稼ぐ「KAGOSHIMAグリーン・ツーリズム」の展開

豊かな自然・景観や貴重な文化遺産、特産農産物など、農村地域ならではの特徴・強みを生かした収益力の高い体験型観光「KAGOSHIMAグリーン・ツーリズム」を創出し、国内外の観光客が「行ってみたい」・「やってみたい」と思える特別感のあるグリーン・ツーリズムを展開します。また、人口減少による国内市場の縮小が懸念される中において、インバウンド<sup>※3</sup>を含めた観光客受入のための宿泊機能の強化や地域と日本国内及び海外とつながるウェブサイト<sup>※4</sup>等の活用促進を図り、国内外の観光客と観光消費額の増加を目指します。

#### 基本施策

1

#### 宿泊機能の強化

修学旅行生等を対象とした農家民泊<sup>※12</sup>や一般観光客を対象とした農家民宿<sup>※13</sup>の受入家庭を増やすなど受入体制を充実させるとともに、空き家等の再生や利活用による宿泊機能の強化を図ります。また、関係団体と連携して修学旅行など団体客及び個人客の誘致を行います。さらに、農家レストランや観光農園等と連携した農泊<sup>※15</sup>を推進し、宿泊・滞在時間を増加させることにより観光消費額の増加を図るとともに、移住・定住の促進にもつなげます。



農家民泊<sup>※12</sup>

## 基本施策

### 2 体験メニュー等の高付加価値化・差別化

世界有数の活火山「桜島」と錦江湾を生かしたブルーツーリズム<sup>※16</sup>やジオツーリズム<sup>※8</sup>との連携など豊富な地域資源（食・歴史・文化・自然）を掛け合わせた収益力の高い本市ならではの体験メニューの高付加価値化・差別化を図るとともに、ナイトタイムイベントや早朝の体験メニューの創出による宿泊・滞在時間の増加等により、地域経済への波及効果を高め、観光消費額の増加を図ります。



桜島でのガイドツアー

## 基本施策

### 3 インバウンドへの対応

Wi-Fi<sup>※21</sup>環境や多言語表記、キャッシュレス決済<sup>※6</sup>などの整備を推進するとともに、地元留学生等を活用したモニターツアーの実施等によるインバウンド誘客に向けた魅力的な体験の創出やインバウンド研修の実施など、受入体制の強化を図ります。



世界の国から

## 基本施策

### 4 ウェブサイト等を用いた稼ぐ仕組みづくりの促進

グリーン・ツーリズム施設や関係団体等のウェブサイトに加え、SNS<sup>※5</sup>による県外・海外への情報発信を強化し、本市グリーン・ツーリズムの認知度向上を図ります。また、ECサイト<sup>※2</sup>や予約システム等オンライン活用を促進し、さらなる消費拡大を図ります。



鹿児島の特産品

## 基本方針2

# マイクログリーン・ツーリズムの推進

国内旅行においては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、県内、近隣地域内での観光、いわゆる「マイクロツーリズム<sup>※18</sup>」の機運が高まっていることから、これまでの取組に加え、農村地域の資源を活用した体験・交流メニューの充実や地域の拠点となるグリーン・ツーリズム施設の最大限の活用を図るなど、市民や周辺自治体住民が気軽に農村地域を訪れ楽しむことのできるグリーン・ツーリズムを推進し、さらなる交流拡大を目指します。

### 基本施策

## 1 気軽に楽しめる体験メニューの充実

各地域で行われる農業・自然体験をはじめ、グリーンファームでの体験プログラムや市民農園の利用、農業まつり<sup>※14</sup>等の交流イベントなどを通じて、八重の棚田をはじめとする緑豊かな農村地域の自然景観の維持や農村地域に伝わる食文化・伝統文化への関心、安心安全な市内産農林水産物に対する理解、地産地消<sup>※10</sup>の促進など、「食」の大切さや食を支える「農」の役割等の理解を深めながら、気軽に楽しめる多彩な体験・交流メニューの充実を図ります。



農業体験（スイートコーン収穫）

### 基本施策

## 2 グリーンファームをはじめとしたグリーン・ツーリズム施設の効果的な活用と磨き上げ

本市グリーン・ツーリズムの拠点施設であるグリーンファームにおいて、施設の魅力向上に向けた、体験・交流メニューの磨き上げや新たな賑わい・憩いの場の創出に取り組み、さらなる利用促進を図ります。

また、都市農村交流センターお茶の里や、その他農産物直売所を核とするグリーン・ツーリズム施設において、交流イベントの開催や売れる商品づくり、販売する農産物等の質・量の確保やサービス面の充実、地域情報の発信を行うなど、都市と農村の交流拠点として有効活用を図ります。



グリーンファームでのイベント

### 3 周辺自治体や市内、県内の学校等との連携強化

かごしま連携中枢都市圏<sup>※20</sup>において連携している市など周辺自治体との連携による相乗効果や付加価値を高めた広域的な体験・交流メニューの充実を図るとともに、南薩地域の自治体等と連携したグリーンファームの活用促進や市内・県内の学校等と連携した修学旅行等の教育活動の受入強化による誘客の促進、本市連携協定大学と連携した体験・交流活動の促進を図り、交流拡大につなげます。

体験ツアー



調理体験



農業体験（玉ねぎの植付け）

## 基本方針3

# 多様な主体による持続可能な体制づくり

農村地域における都市部住民との交流促進を図るため、各農村地域を拠点としているグリーン・ツーリズム活動団体や地域内外の住民・団体等が相互に連携し、個々の活動拠点と合わせ、各地域で一体となった取組をマネジメント<sup>※19</sup>する組織の構築やグリーン・ツーリズムを担う人材の発掘・育成、農村地域内外の若者等の参画促進により、多様な主体による持続可能な農村地域の活性化を目指します。

### 基本施策

## 1 各地域における運営マネジメント組織・ネットワークの強化

持続可能なグリーン・ツーリズムの推進と農村地域の活性化を図る上で重要となる、農村地域の住民や団体等が一体となって取り組む運営マネジメント組織の中心的人材の発掘・育成、構築を図ります。また、県全体でのグリーン・ツーリズムの発展のため、市、県、周辺自治体、グリーン・ツーリズム活動団体、かごしまグリーン・ツーリズム協議会など、農村地域内外の団体等とのネットワークの強化を図ります。



地域連絡会

### 基本施策

## 2 活動組織等の支援及びグリーン・ツーリズムを担う人材の育成

各地域でグリーン・ツーリズムを実践している登録団体等や農家民泊の受入組織等に対し、各種研修の実施や活動の広報等、必要な支援を行います。

また、農村地域の住民等にグリーン・ツーリズムについての理解を促すとともに、農業体験や農家民泊等のグリーン・ツーリズムを担う人材の発掘や育成を図ります。



料理教室

### 基本施策

## 3 若手人材をはじめとする多様な人材の参画促進

農村地域内外における中学生・高校生・大学生などの若手人材から、経験・知見を有するシニア世代など多様な人材による参画を促進し、農村地域を訪れる観光客の満足度を高める受入体制の充実を図ります。



大学生による商品(お弁当)開発

## 横断的な取組

# ICT<sup>※1</sup>の活用と戦略的な情報発信

ICTを活用した情報収集や分析によるマーケティング<sup>※17</sup>の強化などを図るとともに、3つの基本方針の取組を着実に推進するため、効果的な情報発信力の強化を図ります。

### 基本方針1

稼ぐ「KAGOSHIMA  
グリーン・ツーリズム」の  
展開

### 基本方針2

マイクロ  
グリーン・ツーリズムの  
推進

### 基本方針3

多様な主体による  
持続可能な体制づくり

## 取組例

### 環境整備

- ・Wi-Fi環境整備やキャッシュレス決済導入の推進
- ・多言語表記への対応
- ・ウェブサイトを用いた予約システムの確立
- ・ウェブサイトやSNSを用いた地域ネットワーク形成支援

### 情報収集

- ・データを活用したマーケティング

### 情報発信

- ・ウェブサイトやSNSを用いた効果的な情報発信
- ・ECサイト運営支援



鹿児島市世界遺産・ジオ・ツーリズム推進課  
Instagram



オンラインショップ  
(火の島めぐみ館)

# 第4章

## 地域別計画

### 1 谷山地域



#### 1 地域の特性

谷山地域は、本市の南部に位置し、永田川、和田川等流域の平坦地、丘陵地、内陸の山間地、臨海部の埋立地及び自然海岸で構成されています。

地域内では、水稻や軟弱野菜、果菜類などの野菜、温州ミカンなどの果樹、畜産等の農業やタケノコなどの特用林産物の生産、マダイ、ヒラメ等を中心とした漁船漁業が行われているほか、市指定の慈眼寺自然遊歩道や錫山自然遊歩道、烏帽子岳自然遊歩道があります。

#### 2 現状と課題

##### 現状

- 平川町では、自然農法による農業体験や里山体験を通じた環境学習等が行われています。
- 五ヶ別府町などの観光農園では、秋を中心にみかん狩り等が行われています。
- セツ島の沿岸部では、魚釣りなどの漁業体験や地元近海で獲れた鮮魚の直売など、地産地消<sup>※10</sup>の取組も行われています。また、農産物直売所では地域産の新鮮な農産物等の直売が行われています。
- 五ヶ別府町や山田町の大型団地周辺には市民農園があります。

##### 課題

多くの人口を有しながら、郊外には豊かな自然があり、農産物や林産物の生産のほか、漁業も行われている地域です。地域の資源を活用した体験・交流メニュー、農家民泊、農家民宿等の充実・強化や、担い手の育成等に努めるとともに、効果的な情報発信に努め、体験・交流活動の推進を地域の活性化につなげていくことが必要です。

#### 3 目指すべき方向

- 谷山地域の資源を生かした体験・交流メニューの充実や農家民泊、農家民宿等の宿泊機能の強化に加え、これらを担う人材の育成や支援を図ります。
- 農業体験、観光農園、農産物直売所、市民農園等のさらなる利用を促進するため、都市部住民や観光客に向けた情報発信に努めます。

#### 4 具体的な取組

- 農業体験、自然体験、漁業体験や観光農園での収穫体験など、体験・交流メニューの充実や新たなメニューづくりに向けた取組の促進
- 農家民泊受入体制の充実や農家民宿の開業に向けた取組の支援等、宿泊機能の強化
- 地域グリーン・ツーリズム推進連絡会<sup>※9</sup>（以下「地域連絡会」という。）の開催など、地域住民や関係団体との連携
- グリーン・ツーリズム登録団体等（以下第4章のみ「登録団体等」という。）や農家民泊受入家庭への支援
- 鹿児島国際大学との連携

#### 地域の概要



みかん狩り（観光農園）



慈眼寺自然遊歩道



漁業体験



#### 現状

面積：106.8km<sup>2</sup>

人口：158,677人（令和2年国勢調査）

地域内で活動している登録団体等：8団体

鬼塚望岳園、鬼塚望岳園(ファーム)、新保果樹園、上村みかん園、谷山漁業協同組合、鹿兒島ふるさと物産館A コープ農畜水産物直売所、健康な「人・まち・心」をつくる会、農家民泊 光と大地

## 2 伊敷地域



### 1 地域の特性

伊敷地域は、本市の北西部に位置し、幹線道路沿道や甲突川沿岸の限られた平坦地と丘陵部の住宅団地など市街地が限られており、地域の大部分を占める山林・山間部の農村地域では三重岳や甲突川など豊かな自然環境が残されています。地域内では、水稻やコマツナ、ホウレンソウ等の軟弱野菜の生産が盛んで、小山田町には営農団地（アグリタウン小山田）が整備されているほか、市指定の三重岳自然遊歩道があります。

### 2 現状と課題

#### 現状

- 山林・山間部では、緑豊かな自然を生かした森林体験が、小山田町では耕作放棄地を活用した稲作体験が行われています。
- 小野町と犬迫町の観光農園では、夏にぶどう狩りが行われています。
- 犬迫町や皆与志町などの農産物直売所では、地域産の新鮮な農産物等の直売が行われています。
- 地域の農家を中心に農家民泊に取り組んでいます。また、農家民宿を開業している農家もあります。
- 犬迫町の都市農業センターでは、市民を対象とした果物等の収穫体験が行われています。また、例年農林水産まつりが開催されています。
- 都市農業センターには市内最大の市民農園があるほか、住宅地にある市民農園も人気があります。

#### 課題

住宅地と田園や農村地域で構成されている地域で、農村地域には田園風景や山林が広がっています。住宅地が近接している利点を生かしながら、地域の資源を活用した体験・交流メニュー、農家民泊、農家民宿等の充実・強化や担い手の育成等に努めるとともに、効果的な情報発信に努め、体験・交流活動の推進を地域の活性化につなげていくことが必要です。

### 3 目指すべき方向

- 伊敷地域の資源を生かした体験・交流メニューの充実や農家民泊、農家民宿等の宿泊機能の強化に加え、これらを担う人材の育成や支援を図ります。
- 観光農園、農産物直売所、農家民泊、市民農園等のさらなる利用を促進するため、都市部住民や観光客に向けた情報発信に努めます。

#### 4 具体的な取組

- 農業体験、自然体験や観光農園での収穫体験など、体験・交流メニューの充実や新たなメニューづくりに向けた取組の促進
- 農家民泊受入体制の充実や農家民宿の開業に向けた取組の支援等、宿泊機能の強化
- 地域連絡会の開催など、地域住民や関係団体との連携
- 登録団体等や農家民泊受入組織への支援
- 都市農業センターとの連携

#### 地域の概要



都市農業センター



農林水産まつり



ぶどう狩り



● 地域内で活動している登録団体等

#### 現状

面積：57.0km<sup>2</sup>

人口：48,435人（令和2年国勢調査）

地域内で活動している登録団体等：8団体

川路ぶどう園第1農園、川路ぶどう園第2農園、侑泉石蔵、皆房街づくり同好会「より道」、七窪とりたて市、グローバル・フォレスター、お米で支援プロジェクトチーム「どんこ村」開拓団、小山田ふれあい館（鹿児島みらい農業協同組合）

農家民泊受入家庭数：9軒

農家民宿軒数：4軒

## 3 吉野地域



### 1 地域の特性

吉野地域は、本市の北部、稲荷川の上流部に位置し、吉野や岡之原の台地、河川沿岸の平坦地から構成されており、人口も増加傾向にあります。

地域には、「明治日本の産業革命遺産」として世界文化遺産に登録された「寺山炭窯跡」や「関吉の疎水溝」など、貴重な文化遺産があります。

地域内では、施設園芸を主体としたハウレンソウやミズナ等の軟弱野菜やカイワレ大根、パセリなどのつま物野菜、白ネギの生産が盛んに行われており、また、バラ・ユリなどの切花や苗鉢物の生産も行われているほか、市指定の寺山自然遊歩道があります。

### 2 現状と課題

#### 現状

- 岡之原町では野菜づくりが、川上町では合鴨農法による稲作などの農業体験が行われています。
- 吉野町では山林を生かした自然体験が行われています。
- 吉野町や下田町の農産物直売所では、地域産の新鮮な農産物等の直売が行われています。
- 下田町には、ピザ焼きやハーブ体験もできる農家レストランがあります。
- 地域の農家を中心に農家民泊に取り組んでいます。
- 住宅地に市民農園があり、少年自然の家の農園でも親子を対象にした農業体験が行われています。

#### 課題

市街地に近接している利点を生かし、多彩なグリーン・ツーリズムの取組が行われています。これらの活動を継続しながら、世界文化遺産など、地域の資源を活用した体験・交流メニュー、農家民泊、農家民宿等の充実・強化や担い手の育成等に努めるとともに、効果的な情報発信に努め、体験・交流活動の推進を地域の活性化につなげていくことが必要です。

### 3 目指すべき方向

- 吉野地域の資源を生かした体験・交流メニューの充実や農家民泊、農家民宿等の宿泊機能の強化に加え、これらを担う人材の育成や支援を図ります。
- 農業体験、農産物直売所、農家民泊、市民農園等のさらなる利用を促進するため、都市部住民や観光客に向けた情報発信に努めます。

#### 4 具体的な取組

- 吉野地域の資源を生かした農業体験、自然体験、調理体験など、体験・交流メニューの充実や新たなメニューづくりに向けた取組の促進
- 世界文化遺産を活用した体験・交流メニューの魅力向上や誘客の促進
- 農家民泊受入体制の充実や農家民宿の開業に向けた取組の支援等、宿泊機能の強化
- 地域連絡会の開催など、地域住民や関係団体との連携
- 登録団体等や農家民泊受入組織への支援

#### 地域の概要



収穫体験（サツマイモ）



せきよしの物産館



稲音館



● 地域内で活動している登録団体等

#### 現状

面積：33.2km<sup>2</sup>

人口：48,935人（令和2年国勢調査）

地域内で活動している登録団体等：7団体

稲音館、鹿児島の食農育と地域連携を考える会、暮らしの畑屋のおと（畑の寺小屋）、NPO法人かごしま子どもと自然研究所、農産物直売所ごしょらん（再掲：鹿児島みらい農業協同組合）、せきよしの物産館、NPO法人どんぐり自然学校

農家民泊受入家庭数：11軒

## 4 吉田地域



### 1 地域の特性

吉田地域は、本市の北部に位置し、周辺を山々に囲まれ、溪流や緑豊かな自然環境に恵まれた田園地域です。

地域内では、コマツナ等の軟弱野菜を主体とした施設園芸やニガウリ・ナバナ等の特産農産物の生産、乳・肉用牛の経営が行われているほか、市指定の牟礼岡自然遊歩道があります。

### 2 現状と課題

#### 現状

- 本名町では山あいの自然を生かした農業・自然体験が行われています。
- 輝楽里よしだ館では、地域産の新鮮な農産物等の直売が行われています。
- 地域の農家を中心に農家民泊に取り組んでいます。また、農家民宿を開業している農家もあります。
- 市関連のイベントとして、新鮮な農畜産物等の特売や多様な催しでにぎわう「よしだふるさとまつり」が開催されています。

#### 課題

田園風景など豊かな自然に恵まれ、九州縦貫自動車道や県道鹿児島蒲生線など、重要な幹線道路を有する地域です。その利点を生かし、自然環境の維持保全を図りながら、地域の資源を活用した体験・交流メニュー、農家民泊、農家民宿等の充実・強化や担い手の育成等に努めるとともに、効果的な情報発信に努め、体験・交流活動の推進を地域の活性化につなげていくことが必要です。

### 3 目指すべき方向

- 吉田地域の資源を生かした体験・交流メニューの充実や農家民泊、農家民宿等の宿泊機能の強化に加え、これらを担う人材の育成や支援を図ります。
- 輝楽里よしだ館を拠点とした都市と農村の交流を推進し、地域の活性化を図ります。
- 輝楽里よしだ館、農業体験、農家民泊、農家民宿等のさらなる利用を促進するため、都市部住民や観光客に向けた情報発信に努めます。

### 4 具体的な取組

- 豊かな地域資源を生かした農業・自然体験など、体験・交流メニューの充実や新たなメニューづくりに向けた取組の促進
- 輝楽里よしだ館の交流拠点としての有効活用及び魅力向上
- 農家民泊受入体制の充実や農家民宿の開業に向けた取組の支援等、宿泊機能の強化

- 地域連絡会の開催など、地域住民や関係団体との連携
- 登録団体等や農家民泊受入組織への支援

## 地域の概要



輝楽里よしだ館



自然・体感 よしだ自遊の森



### 現状

面積：54.8km<sup>2</sup>

人口：9,868人（令和2年国勢調査）

地域内で活動している登録団体等：3団体

輝楽里よしだ館運営組合、自然・体感 よしだ自遊の森、  
アグリスクール（再掲：鹿児島みらい農業協同組合）

農家民泊受入家庭数：7軒

農家民宿軒数：1軒

## 5 桜島地域



### 1 地域の特性

桜島地域は、錦江湾に浮かぶ火山活動が活発な桜島にあり、地域内のほとんどが溶岩原、森林及び原野で、住宅地は海岸線に沿って帯状に続いています。また、ほぼ全域が霧島錦江湾国立公園と県の名勝に指定されているほか、桜島・錦江湾ジオパークの主要なエリアであり、桜島独自の貴重な自然環境や景観自然を有しています。

地域内では、桜島小ミカンやビワ、桜島大根といった特色ある農産物の生産やブリやカンパチの養殖等が行われています。

### 2 現状と課題

#### 現状

- ・島内の特産物を生かし、東桜島町の観光農園では桜島小ミカンやビワ等の収穫体験が、桜島白浜町では桜島大根の種まきや収穫体験が、黒神町では椿油搾り体験が行われています。また、雄大な自然を生かし、沿岸部ではシーカヤックや天然温泉掘り等の体験が行われています。
- ・桜島の北東にある新島では、手つかずの自然を生かした自然体験や錦江湾クルージングを行っています。
- ・桜島白浜町には、調理体験もできる農家レストランがあります。
- ・道の駅桜島火の島めぐみ館では、地域産の新鮮な農産物等の直売や地域の食材を使った食事の提供が行われています。
- ・地域の農家を中心に農家民泊に取り組んでいます。
- ・鹿児島大学の地域おこしグループが農業体験イベント等を開催しています。
- ・市関連のイベントとして、新鮮な農産物等の特売や伝統芸能の披露等が行われる「桜島地域ふるさと秋まつり」や桜島大根のギネス記録に挑戦する「世界一桜島大根コンテスト」が開催されています。

#### 課題

鹿児島島のシンボルである桜島は、外国人を含む多くの観光客や市民が訪れる地域です。地域では、雄大な自然や特産物等を活用し、観光客等を対象とした体験・交流活動が展開されています。さらなる地域発展のために、地域の資源を活用した体験・交流メニュー、農家民泊、農家民宿等の充実・強化や担い手の育成等に努めるとともに、効果的な情報発信に努め、体験・交流活動の推進を地域の活性化につなげていくことが必要です。

### 3 目指すべき方向

- ・桜島地域の資源を生かした体験・交流メニューの充実や農家民泊、農家民宿等の宿泊機能の強化に加え、これらを担う人材の育成や支援を図ります。
- ・火の島めぐみ館を拠点とした都市と農村の交流を推進し、地域の活性化を図ります。
- ・火の島めぐみ館、観光農園、農業体験、農家民泊等のさらなる利用を促進するため、都市部住民や観光客に向けた情報発信に努めます。

#### 4 具体的な取組

- ・桜島の自然環境を生かした体験、観光農園での収穫体験、調理体験、沿岸部での漁業体験など、体験・交流メニューの充実や錦江湾を生かしたブルーツーリズム<sup>※16</sup>など新たなメニューづくりに向けた取組の促進
- ・ジオツーリズム<sup>※8</sup>等と連携した体験・交流メニューの魅力向上や誘客の促進
- ・火の島めぐみ館の交流拠点としての有効活用及び魅力向上
- ・農家民泊受入体制の充実や農家民宿の開業に向けた取組の支援等、宿泊機能の強化
- ・地域連絡会の開催など、地域住民や関係団体との連携
- ・登録団体等や農家民泊受入組織への支援
- ・地域おこし協力隊員の取組との連携

#### 地域の概要



収穫体験（桜島大根）



火の島めぐみ館



かごしまカヤックス



● 地域内で活動している登録団体等

#### 現状

面積：76.8km<sup>2</sup>

人口：3,643人（令和2年国勢調査）

地域内で活動している登録団体等：9団体

吉原果樹園、火の島めぐみ協同組合、NPO法人桜島ミュージアム、(有)ファームランド櫻島、しろかみづの会、Caféしらはま、NPO法人ふるさと再生プロジェクトの会、かがしまカヤックス、昭和海産

農家民泊受入家庭数：11軒

## 6 喜入地域



### 1 地域の特性

喜入地域は、本市の南部に位置し、約8割を占める山地と錦江湾に沿った平坦地で構成されています。

地域には、プロサッカーチームのトレーニング施設や日本遺産「薩摩の武士が生きた町」喜入旧麓地区があります。地域内では、オクラやカボチャ、スイートコーン、ダイコン、ブロッコリーなどの特産農産物の生産が行われており、クロマグロの養殖や、マダイ、ヒラメ等を中心とした漁業も営まれているほか、市指定のグリーンファーム自然遊歩道があります。

### 2 現状と課題

#### 現状

- 喜入一倉町の観光農業公園（グリーンファーム）は、体験用農地や地域産の新鮮な農産物等を取扱う直売所、農園レストラン、滞在型市民農園やキャンプ場等を備えており、農業体験をはじめ、自然体験、調理体験、環境学習等の多彩な体験を提供しています。
- 喜入前之浜町やマリニピア喜入などの農産物直売所では、地域産の新鮮な農産物等の直売が行われています。
- 地域の農家を中心に、主に南薩地域と連携して農家民泊に取り組んでいます。また、農家民宿を開業している農家もあります。
- 市関連のイベントとして、新鮮な農水産物の特売や多彩な催しでにぎわう「喜入わいわいまつり」が開催されています。

#### 課題

本市グリーン・ツーリズムの拠点であるグリーンファームの魅力や機能を十分に活用し、地域と連携しながら都市と農村の一層の交流拡大を図る必要があります。さらに、地域の資源を活用した体験・交流メニュー、農家民泊、農家民宿等の充実・強化や、担い手の育成等に努めるとともに、効果的な情報発信に努め、体験・交流活動の推進を地域の活性化につなげていく必要があります。

### 3 目指すべき方向

- グリーンファームを拠点とした都市と農村の交流拡大に取り組みます。
- 喜入地域の資源を生かした体験・交流メニューの充実や農家民泊、農家民宿等の宿泊機能の強化に加え、これらを担う人材の育成や支援を図ります。
- グリーンファーム、農産物直売所、農家民泊、農家民宿等のさらなる利用を促進するため、都市部住民や観光客に向けた情報発信に努めます。

#### 4 具体的な取組

- グリーンファームのさらなる魅力向上及び利用促進
- 喜入旧麓地区など、豊かな地域資源を生かした体験・交流メニューの充実や沿岸部での漁業体験など新たなメニューづくりに向けた取組の促進
- 鹿児島ユナイテッドFCと連携した体験・交流メニューの推進
- 農家民泊受入体制の充実や南薩地域との連携、農家民宿の開業に向けた取組の支援等、宿泊機能の強化
- 地域連絡会の開催など、地域住民や関係団体との連携
- 登録団体等や農家民泊受入組織への支援

#### 地域の概要



鹿児島ユナイテッドFC  
トレーニングセンター



きれいの杜



グリーンファーム自然遊歩道



#### 現状

面積：61.2km<sup>2</sup>

人口：10,706人（令和2年国勢調査）

地域内で活動している登録団体等：3団体

前之浜地区わいわい市委員会、観光農業公園農産物直売所運営組合、手織り工房わくわく本舗

農家民泊受入家庭数：7軒

農家民宿軒数：2軒

## 7 松元地域



### 1 地域の特性

松元地域は、本市の西部に位置し、多くの丘陵と溪谷からなり、河川沿岸や幹線道路沿線の限られた平坦地と主に山林等で構成されています。

地域内では豊かな自然環境の中で、松元ダムの水を利用した、茶や園芸、水稻・ナスなどの特産農産物の生産が行われています。

### 2 現状と課題

#### 現状

- 茶の手もみ教室など、茶に代表される地域特産物を生かした体験が行われています。
- 四元町では地域産のソバを使った体験が、春山町などでは山林を生かした自然体験や農業体験が行われています。
- 石谷町には自家栽培した野菜などを使った料理を楽しめる農家レストランがあります。
- 春山町の都市農村交流センターお茶の里は、地域産の新鮮な農産物等を取扱う直売所や飲食施設、茶の手もみ等もできる交流室、休憩・情報スペース、多目的広場等があります。
- 地域の農家を中心に農家民泊に取り組んでいます。また、農家民宿を開業している農家もあります。
- 春山町には市民農園もあります。
- 市関連のイベントとして、お茶の試飲販売や市内産黒毛和牛の特売等でのぎわう「フェスタまつもと」が開催されています。

#### 課題

都市と農村の交流施設であるお茶の里の魅力や機能を十分に活用し、地域と連携しながら一層の交流拡大を図る必要があります。さらに、地域の資源を活用した体験・交流メニュー、農家民泊、農家民宿等の充実・強化や担い手の育成等に努めるとともに、効果的な情報発信に努め、体験・交流活動の推進を地域の活性化につなげていくことが必要です。

### 3 目指すべき方向

- 松元地域の資源を生かした体験・交流メニューの充実や農家民泊、農家民宿等、宿泊機能の強化に加え、これらを担う人材の育成や支援を図ります。
- お茶の里を拠点とした都市と農村の交流を推進し、地域の活性化を図ります。
- お茶の里、農業体験、農家民泊、農家民宿、市民農園等のさらなる利用を促進するため、都市部住民や観光客に向けた情報発信に努めます。

#### 4 具体的な取組

- 特産の茶を使った体験、自然体験、調理体験など、体験・交流メニューの充実や新たなメニューづくりに向けた取組の促進
- お茶の里の交流拠点としての有効活用及び魅力向上
- 農家民泊受入体制の充実や農家民宿の開業に向けた取組の支援等、宿泊機能の強化
- 地域連絡会の開催など、地域住民や関係団体との連携
- 登録団体等や農家民泊受入組織への支援
- 松陽高校との連携
- 松元ダムを生かした体験メニューづくり

#### 地域の概要



お茶の手もみ体験



農家民宿



お茶の里



● 地域内で活動している登録団体等

面積：51.1km<sup>2</sup>

人口：16,563人（令和2年国勢調査）

地域内で活動している登録団体等：10団体

#### 現状

手打ちそば工房国清・農家民宿 きよちゃん、まつもと農業振興クラブ、鹿児島市茶手もみ保存会、農家民宿ニャンバーワン、もりはやし倶楽部、かもしま焚火研究会、小さなお店カフェ、平田の里山、(有)坂之上製茶、ポタジェファム

農家民泊受入家庭数：13軒

農家民宿軒数：4軒

## 8 郡山地域



### 1 地域の特性

郡山地域は、本市の北西部、甲突川の上流部に位置し、東に花尾山、三重岳、北に八重山があり、河川沿岸や幹線道路沿道の限られた平坦地と主に山地で構成されています。

地域内では、ニガウリを主体とした露地野菜や施設を利用した軟弱野菜、肉用牛といった農畜産物や早掘りタケノコ等の生産が行われているほか、市指定の八重山自然遊歩道があります。

豊富な温泉に加え、花尾神社や八重の棚田などの史跡・名所、スパランド裸・楽・良、郡山体育館などのスポーツ・レクリエーション施設を有しています。

### 2 現状と課題

#### 現状

- 郡山町八重地区の棚田では、オーナー制の稲作体験が行われており、農村景観の保全や地域住民と参加者との交流が図られています。
- スパランド裸・楽・良では、夏休みや冬休みに子どもたちを対象にグリーン・ツーリズムの宿泊体験学習が行われています。
- 郡山町大浦地区を中心に、山あいの自然を生かした自然体験や農業体験等が行われています。
- 川田町には、農福連携を活用した水耕栽培により育てた葉物野菜等やその加工品を購入することができる直売所があります。10月には収穫体験などのイベントも開催されています。
- 町内の自然公園において、子どもたちを対象にした自然・農業・芸術体験が行われています。
- 地域の農家を中心に農家民泊に取り組んでいます。また、農家民宿を開業している農家もあります。
- 鹿児島国際大学のサークルが花尾町を中心に町おこし活動に取り組んでいます。
- 市関連のイベントとして、新鮮な農産物等の特売や伝統芸能の披露等が行われる「郡山ふるさとまつり」が開催されています。

#### 課題

現在行われている八重の棚田に代表される農村景観を生かした体験・交流メニューに加えて、地域の資源を活用した体験・交流メニュー、農家民泊、農家民宿等の充実・強化や担い手の育成等に努めるとともに、効果的な情報発信に努め、体験・交流活動の推進を地域の活性化につなげていくことが必要です。

### 3 目指すべき方向

- 郡山地域の資源を生かした体験・交流メニューの充実や農家民泊、農家民宿等の宿泊機能の強化に加え、これらを担う人材の育成や支援を図ります。
- 八重の棚田の美しい農村景観を観光資源として活用します。
- 八重の里を拠点とした都市と農村の交流を推進し、地域の活性化を図ります。

- 八重の里、農業体験、農産物直売所、農家民泊、農家民宿等のさらなる利用を促進するため、都市部住民や観光客に向けた情報発信に努めます。

#### 4 具体的な取組

- 八重の棚田など、豊かな地域資源を生かした体験・交流メニューの充実や新たなメニューづくりに向けた取組の促進
- 八重の里の交流拠点としての有効活用及び魅力向上
- 農家民泊受入体制の充実や農家民宿の開業に向けた取組の支援等、宿泊機能の強化
- 地域連絡会の開催など、地域住民や関係団体との連携
- 登録団体等や農家民泊受入組織への支援
- 明桜館高校との連携

#### 地域の概要



八重の棚田イルミネーション



棚田の田植え



#### 現状

面積：57.8km<sup>2</sup>

人口：6,822人（令和2年国勢調査）

地域内で活動している登録団体等：6団体

八重地区棚田保全委員会、(一財)鹿児島市健康交流促進財団、NPO法人みどりの風かかん、八重の里施設管理組合、A S O B B A はらっぱの芸術学校、(株)EN WATER FARMS

農家民泊受入家庭数：5軒

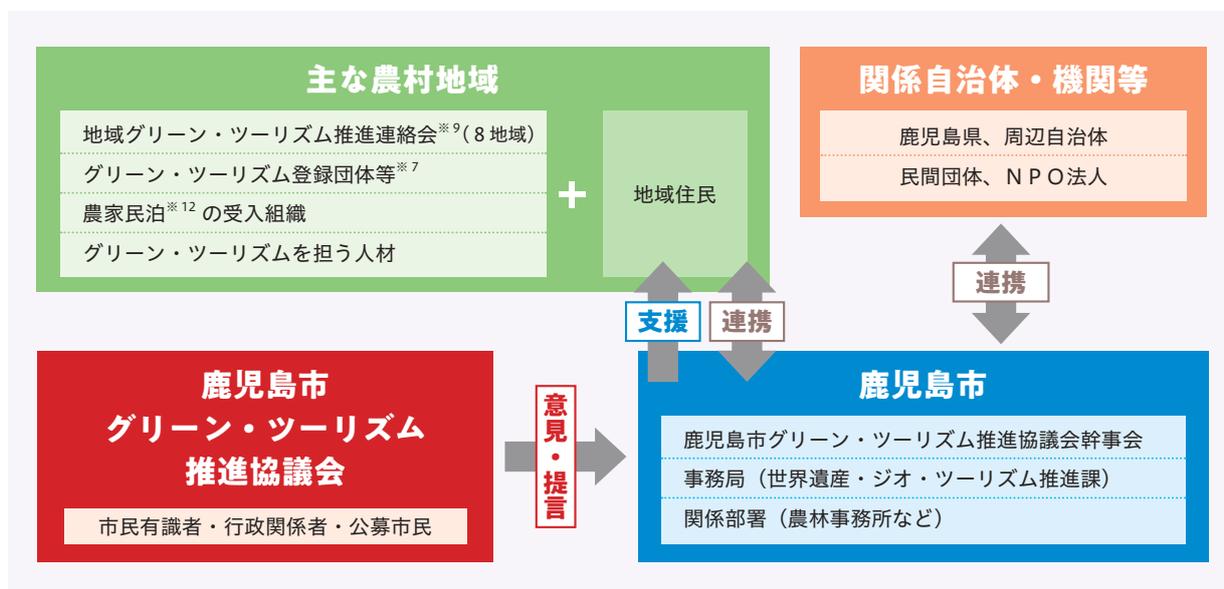
農家民宿軒数：6軒

# 第5章

# グリーン・ツーリズムの推進に向けて

## 1 推進体制

次の推進体制のとおり、市、関係団体、農村地域の住民など本市のグリーン・ツーリズムに関わる人々は、地域の特性を生かしたグリーン・ツーリズムに協働して取り組みます。また、市（世界遺産・ジオ・ツーリズム推進課）が計画の進行管理を行います。



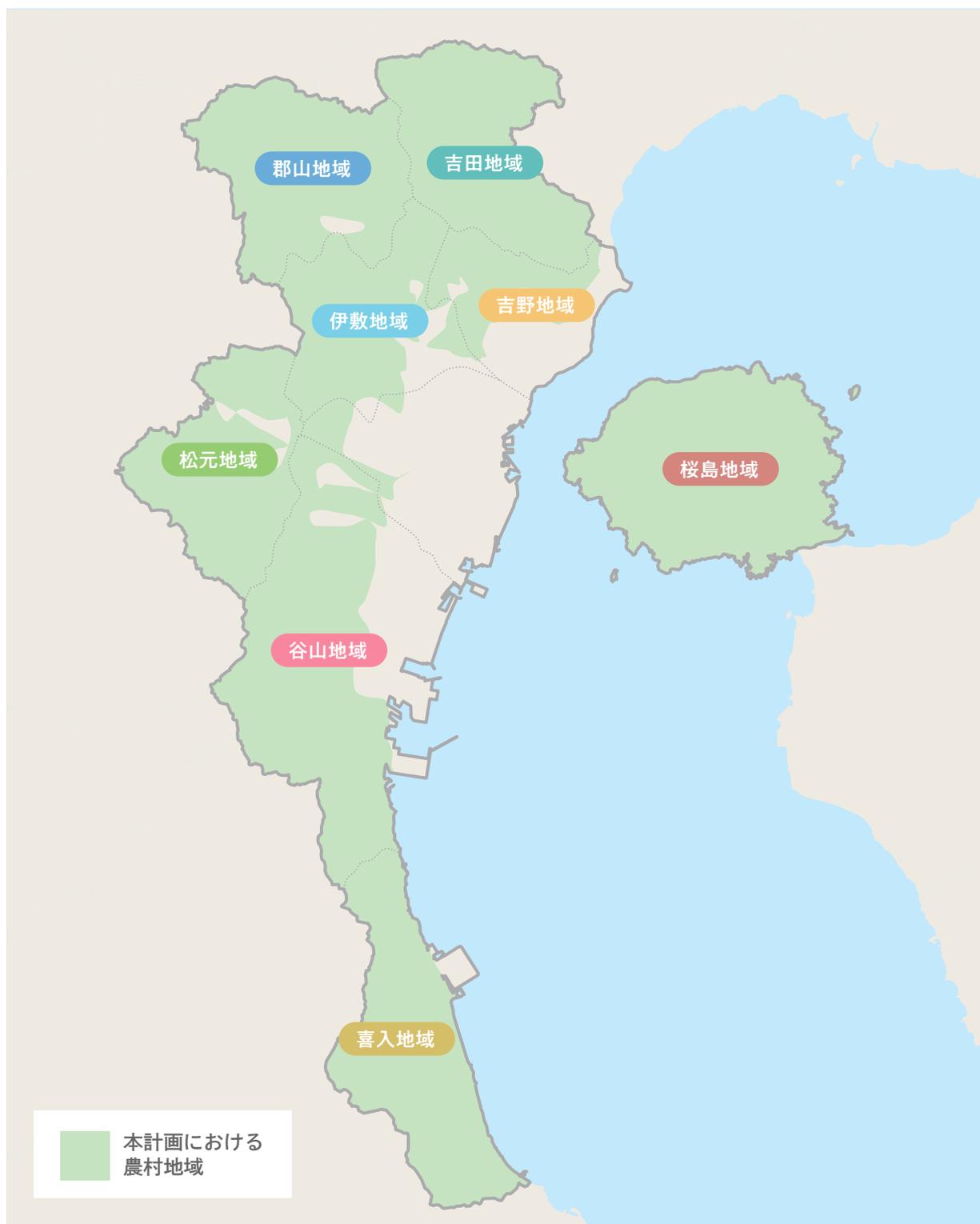
## 2 計画の進行管理

本計画を着実に推進するため、進捗状況や目標の達成状況等を定期的に把握・検証し、鹿児島市グリーン・ツーリズム推進協議会等に報告するとともに、必要に応じて計画を見直すなど、PDCAサイクルによる進行管理を行いながら、より効果的な施策や事業の展開を図ります。



# 参考資料

## 1 本市の農村地域



## 2 第3期鹿児島市グリーン・ツーリズム推進計画 全体図

基本目標

稼ぐ体験型ツーリズムの推進による農村地域の活性化

### 基本方針1 稼ぐ「KAGOSHIMAグリーン・ツーリズム」の展開

豊かな自然・景観や貴重な文化遺産、特産農産物など、農村地域ならではの特色・強みを生かした収益力の高い体験型観光「KAGOSHIMAグリーン・ツーリズム」を創出し、国内外の観光客が「行ってみたい」「やってみたい」と思える特別感のあるグリーン・ツーリズムを展開します。また、人口減少による国内市場の縮小が懸念される中において、インバウンド<sup>※3</sup>を含めた観光客受入のための宿泊機能の強化や地域と日本国内及び海外とつながるウェブサイト<sup>※4</sup>等の活用促進を図り、国内外の観光客と観光消費額の増加を目指します。

### 基本方針2 マイクログリーン・ツーリズムの推進

国内旅行においては、新型コロナウイルス感染症の拡大により、県内、近隣地域内での観光、いわゆる「マイクロツーリズム<sup>※18</sup>」の機運が高まっていることから、これまでの取組に加え、農村地域の資源を活用した体験・交流メニューの充実や地域の拠点となるグリーン・ツーリズム施設の最大限の活用を図るなど、市民や周辺自治体住民が気軽に農村地域を訪れ楽しむことのできるグリーン・ツーリズムを推進し、さらなる交流拡大を目指します。

### 基本方針3 多様な主体による持続可能な体制づくり

農村地域における都市部住民との交流促進を図るため、各農村地域を拠点としているグリーン・ツーリズム活動団体や地域内外の住民・団体等が相互に連携し、個々の活動拠点と合わせ、各地域で一体となった取組をマネジメント<sup>※19</sup>する組織の構築やグリーン・ツーリズムを担う人材の発掘・育成、農村地域内外の若者等の参画促進により、多様な主体による持続可能な農村地域の活性化を目指します。

横断的な取組 ICTの活用と戦略的な情報発信

#### 基本施策

#### 主な取組例

- |                          |   |
|--------------------------|---|
| ① 宿泊機能の強化                | <ul style="list-style-type: none"> <li>農家民泊、農家民宿の受入体制の充実</li> <li>空き家等を活用した宿泊施設の整備促進</li> </ul>   |
| ② 体験メニュー等の高付加価値化・差別化     | <ul style="list-style-type: none"> <li>収益力の高い鹿児島ならではの稼げる体験コンテンツの開発（桜島・錦江湾の魅力を生かしたブルーツーリズム<sup>※16</sup>やジオツーリズム<sup>※8</sup>との連携など）</li> <li>宿泊・滞在時間の増につながるナイトタイムイベントや早朝体験メニューの創出</li> </ul>    |
| ③ インバウンドへの対応             | <ul style="list-style-type: none"> <li>Wi-Fi<sup>※21</sup>やキャッシュレス導入、インバウンド研修など受入環境の強化</li> <li>地元留学生との連携による魅力づくりの創出（モニターツアーの実施等による新たな体験メニューの創出など）</li> <li>ホームページやパンフレット等の多言語対応への支援</li> </ul> |
| ④ ウェブサイト等を用いた稼ぐ仕組みづくりの促進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>ECサイト<sup>※2</sup>や予約システム等の活用促進</li> <li>ウェブサイト等による情報発信の強化</li> </ul>  |

#### 基本施策

#### 主な取組例

- |   |  |
|---|--|
| ① 気軽に楽しめる体験メニューの充実                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>農村地域の特色を生かした多彩なグリーン・ツーリズム体験メニューの充実</li> <li>農業、自然、調理体験など各種体験・交流メニューの充実</li> </ul>   |
| ② グリーンファームをはじめとしたグリーン・ツーリズム施設の効果的な活用と磨き上げ | <ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンファームの利用促進に向けた体験・交流メニューの磨き上げや新たな賑わい・憩いの場の創出</li> <li>販売する農産物等の質・量の確保やサービス面の充実、交流イベントの開催や地域情報の発信</li> </ul>                                 |
| ③ 周辺自治体や市内、県内の学校等との連携強化                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>新たな魅力の創出に向けた連携中枢都市圏<sup>※20</sup>のネットワーク活用</li> <li>南薩地域と連携したグリーンファームの活用促進</li> <li>市内・県内の学校等の教育活動、修学旅行の受入強化</li> <li>本市連携協定大学との連携</li> </ul> |

#### 基本施策

#### 主な取組例

- |                                |   |
|--------------------------------|---|
| ① 各地域における運営マネジメント組織・ネットワークの強化  | <ul style="list-style-type: none"> <li>中心的人材の発掘・育成</li> <li>運営マネジメント組織の構築・支援</li> <li>農村地域内外の団体等とのネットワーク強化</li> </ul> |
| ② 活動組織等の支援及びグリーン・ツーリズムを担う人材の育成 | <ul style="list-style-type: none"> <li>登録団体等や農家民泊受入組織等への支援</li> <li>グリーン・ツーリズムを担う人材の発掘・育成</li> </ul>                  |
| ③ 若手人材をはじめとする多様な人材の参画促進        | <ul style="list-style-type: none"> <li>中学生・高校生・大学生など若手人材の参画促進</li> <li>シニア世代の経験・知見の活用促進</li> </ul>                    |

#### 目標指標

- |       |                                       |       |   |
|-------|---------------------------------------|-------|---|
| 目標指標1 | グリーン・ツーリズム登録団体等 <sup>※7</sup> における売上額 | 目標指標3 | 農家民泊 <sup>※12</sup> 、農家民宿 <sup>※13</sup> の受入家庭数 |
| 目標指標2 | 活動組織等及びグリーンファームにおける農業体験等の延べ体験者数       | 目標指標4 | SNS <sup>※5</sup> フォロワー数                        |
|       |                                       | 目標指標5 | グリーンファームの利用者数                                   |

#### 地域別計画（8地域）

- |      |      |      |      |
|------|------|------|------|
| 谷山地域 | 伊敷地域 | 吉野地域 | 吉田地域 |
| 桜島地域 | 喜入地域 | 松元地域 | 郡山地域 |

参考資料

### 3 他都市におけるグリーン・ツーリズムの取組事例



#### まるごと夢マルシェ

📍 大分県豊後高田市

毎週金曜日夜と土曜日昼&夜に「まるごと夢マルシェ」を開催しています。メンバーが農家と交流し、時には収穫から一緒に参加させてもらった地元の野菜を、野菜ピザなど美味しく調理して届けています。野外で風に吹かれながら美味しい食事を楽しめる特別な空間となっています。

運営：玉津まちな駅「夢むすび」



#### 農村交流 田舎生活・農家宿泊体験

📍 栃木県大田原市

実際に農家の家に宿泊し、家族の一員として生活をします。農業のやりがいや苦勞、楽しさを体験し、普段とは違う時の流れの中で、健康的な生活を送ることができるとともに、礼儀作法や気遣い、コミュニケーション能力等、人と人、自然と人との繋がりを実感することができます。

運営：株式会社 大田原ツーリズム



#### 自然体験イベント 中禅寺湖で夜の生き物探し

📍 栃木県日光市

自然解説員の案内のもと、夜の森や水辺で活動する生き物たちを探したり、満天の星空を望んだり普段は中々体験できない夜の中禅寺湖の自然を楽しむことができます。

運営：日光自然博物館



#### 空き家再生 丸山集落

📍 兵庫県丹波篠山市

集落内の空き家を再生した農泊施設となっており、村の方たちが運営を行っています。谷奥の小さな村に昔と変わらない静かな時間が流れており、Uターンが増えるなど、観光を通じた地方創生にもつながっています。

運営：NPO 法人 集落丸山



### 川漁体験（森の国の宿 わらび）

📍 愛媛県松野町

目の前に広がる四万十川の支流である広見川に仕掛けをして、翌朝引き上げた魚を持ち帰ることができるなど、宿泊者限定の川漁体験をすることができます。季節によっては、お茶摘み体験やホタル観賞など、広大な自然体験を肌で感じることができます。

提供：愛媛県グリーン・ツーリズム推進協議会



### 森林セラピー

📍 島根県飯南町

セラピーロードを歩いたり、森の中のハンモックに揺られるなど、より五感で森林浴の持つ癒し効果（見る・聴く・嗅ぐ・触る・味わう）を体験できます。飯南町森林セラピーガイドによる体験プログラムやツアーを実施しており、更なる心身の健康増進・疾病の予防につながっています。

運営：（一社）飯南町観光協会



### 都市交流施設・道の駅 保田小学校

📍 千葉県鋸南町

廃校を「コミュニティの核となる施設」として再生し、佇まいは当時のままに、教室や体育館を改装。買う・食べる・泊まる・知るの4つの体験をすることができます。観光客だけでなく、地元の人たちが気軽に集うことができる施設にもなっています。

指定管理者：（株）共立メンテナンス



### 小豆島ガールプロジェクト

📍 香川県小豆島

女性の視点で島の宝物を輝かせ、お気に入りの場所や、島に暮らす素敵な人たちを紹介し、たくさんの魅力を発信しています。女性が中心となって活動することで、小豆島がさらに「女性たちの輝ける場所」となることを目指しています。

運営：小豆島ガール運営メンバー（オリーブナビ小豆島内）

## 4 用語解説（50音順）

### あ行

#### ※1 ICT (5頁/8頁/16頁)

Information & Communications Technology (情報通信技術) の略。

#### ※2 ECサイト (12頁/36頁)

ECは電子商取引のことで、ECサイトはインターネット上で商品・サービスの売買ができるウェブサイトのこと。ECはElectronic Commerceの略。

#### ※3 インバウンド (5頁/11頁/35頁)

外国人が訪れてくる旅行のこと。日本へのインバウンドを訪日外国人旅行または訪日旅行という。

#### ※4 ウェブサイト (11頁/35頁)

インターネット上で展開されている、情報の集合体としてのホームページのこと。

#### ※5 SNS (Social Networking Service) (5頁/12頁/35頁)

個人間のコミュニケーションを促進し、社会的なネットワークの構築を支援するインターネットを利用したサービスのこと。

### か行

#### ※6 キャッシュレス決済 (12頁)

お札や小銭などの現金を使用せずに、主にデジタル化されたデータで支払うこと。クレジットカード、電子マネー、デビットカード、スマートフォンやインターネットを使った支払いなどがこれにあたる。なお、キャッシュ (cash) は「現金」、接尾辞のレス (less) は「ない」を意味する。

#### ※7 グリーン・ツーリズム登録団体等

(4頁/10頁/33頁/35頁)

グリーン・ツーリズムを推進し、農村地域の活性化を図るため、鹿児島市が審査のうえ登録しているグリーン・ツーリズムを自主的・主体的に実践している団体及び個人

### さ行

#### ※8 ジオツーリズム (12頁/26頁/36頁)

地質及び地形や景観、風土、歴史、生活文化など地質に密接に関連する領域を切り口として整備されたジオパークにおいて、「自然と人間（暮らし）との関わり」をテーマに訪れた人々が知的感動、楽しみ等を味わい、将来に向けての環境保全の大切さを学ぶことができる余暇活動や観光旅行

### た行

#### ※9 地域グリーン・ツーリズム推進連絡会

(18頁/33頁)

鹿児島市が、農村地域のグリーン・ツーリズムの推進を図るため、農村地域ごとに開催している地域のグリーン・ツーリズム関係者等で構成される会議

#### ※10 地産地消 (13頁/17頁)

「地域生産地域消費」の略で、その地域で作られた農産物等を、その地域で消費すること。

### な行

#### ※11 ニューツーリズム (2頁)

従来の物見遊山的な観光旅行に対して、テーマ性が強く、体験型・交流型の要素を取り入れた新しいタイプの旅行のこと。テーマとしては産業観光、エコツーリズム、グリーン・ツーリズム、ヘルスツーリズム、ジオツーリズム等がある。

※<sup>12</sup>農家民泊 (5頁/10頁/11頁/33頁/35頁)

「鹿児島県における農山漁村生活体験学習に係る取扱指針」に基づき、農家等が営利を目的とせず、学校教育の一環として修学旅行生等の食事や宿泊等を含めて体験学習を受け入れる活動

※<sup>13</sup>農家民宿 (5頁/10頁/11頁/35頁)

農家等が旅館業法の許可を取得して営業する、農林漁業が体験できる民宿

※<sup>14</sup>農業まつり (13頁)

鹿児島市において、農林水産物への理解と消費拡大等を主な目的に開催しているイベント

※<sup>15</sup>農泊 (11頁)

農山漁村地域に宿泊し、滞在中に豊かな地域資源を活用した食事や体験等を楽しむ「農山漁村滞在型旅行」のこと。

## は行

※<sup>16</sup>ブルーツーリズム (2頁/12頁/26頁/36頁)

地域の漁業や美しい自然景観、伝統文化等多様な諸資源を活かし、都市住民等に多様な余暇活動を提供する漁村滞在型余暇活動

## ま行

※<sup>17</sup>マーケティング (16頁)

顧客が真に求める商品(サービスを含む)を作り、その情報を届け、顧客がその商品を得られるようにする活動を表す概念

※<sup>18</sup>マイクロツーリズム (5頁/13頁/35頁)

遠方や海外への旅行に対し、3密を避けながら地元の方が近場で過ごす旅のスタイル。自宅から1～2時間程の距離で、安心、安全に過ごしながらか地域の魅力を深く知るきっかけになり、地域経済にも貢献する。

※<sup>19</sup>マネジメント (15頁/35頁)

経営体または“経営する”こと。その核は調整で、全体目標と個別目標の調整、各種ステークホルダー(組織が活動を行うことで影響を受ける利害関係者)間の調整など自立した個間の調整を行うこと。

## ら行

※<sup>20</sup>連携中枢都市圏 (14頁/36頁)

地方圏において、昼夜間人口比率がおおむね1以上の指定都市・中核市と、社会的、経済的に一体性を有する近隣市町村とで形成する都市圏。

## わ行

※<sup>21</sup>Wi-Fi (12頁/36頁)

電波を用いた無線通信により、近くにある機器間を相互に接続し、構内ネットワーク(LAN)を構築する技術で、無線LANの普及促進を行う業界団体であるWi-Fi Allianceから認証を受けた機器のこと。現在は認証を受けた機器が増えたことから、無線LAN全般を指してWi-Fiということもある。



### 第3期 鹿児島市 グリーン・ツーリズム推進計画

発行年月/令和4年5月(令和4年3月策定)

編集・発行/鹿児島市 観光交流局 観光交流部 世界遺産・ジオ・ツーリズム推進課

〒892-8677 鹿児島市山下町11番1号

TEL 099-216-1371(直通)

メールアドレス sekai-geo-tourism@city.kagoshima.lg.jp

かごしま市のグリーン・ツーリズムホームページ

<http://kago-greent.jp/>